

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 槻田 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、「文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）」に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。
 この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
 学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。
 なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問調査

生徒質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

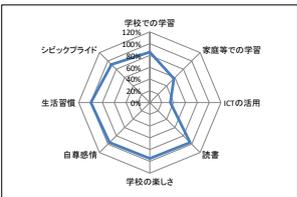
- (1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと、また、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができている。事象や行為を表す語彙について理解力がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く問題	
	努力が必要な問題	「一 榎木の美」に書かれている場面が、「二 豹の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとどのように考えた理由を書く問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	多角形の外角の意味を理解している生徒が多い。一次関数について、変化の割合を基に、Xの増加量に対するYの増加量を求めることができる生徒が多い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	A駅からの実行距離と運賃の関係を表すグラフの傾きを読み取ればし駅とB駅の間の実行距離が分かるかを 選ぶ問題	
	努力が必要な問題	$3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であるかを説明する問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	実験における実験器具の操作などに関する技能が身につけている。音の高低に関する問題では収集する資料や情報の信頼性についての知識および判断力がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	抵抗に関する知識を手掛かりに、身近な電気回路に抵抗がついている理由を選択する問題	
	努力が必要な問題	生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 「友達関係に満足しているか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」との問いに対して約90%の児童生徒が肯定的に回答している。 主体的・対話的で深い学びが必要のため、今後も学校全体で授業改善を進め生徒が「わかった」と思え、自ら授業をふりかえることができる授業にすることが必要である。 「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合が非常に低い。今後は、個に応じた指導の場面や、調べ学習だけでなく、問題を解決するツールとしても活用できるように啓発していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

国語：長い文章から理由を選ぶ読解力が必要である。数学：確率の問題で判断の理由を数学的な表現を用いて説明することが苦手な生徒が多い。新聞のコラムを読んだり書いたりすることで推察力を身につけるように取り組んでいる。

- ② 家庭生活習慣等に関する取組

この調査の結果、家庭学習時間が少ない傾向が非常に強く、昨年度同様に、週末課題と称し家庭学習増加につながる取り組みをしている。また、全学年統一した英単語テストなどを実施し学習意欲向上に取り組んだ。